

【2026年4月開幕展覧会開催のお知らせ】

大阪歴史博物館
特別展「小泉八雲―怪談とフォークロリストのまなざし―」

会期 | 2026年4月11日（土）～6月8日（月）

会場 | 大阪歴史博物館

大阪歴史博物館では、2026年4月11日（土）から6月8日（月）まで、6階特別展示室において、特別展「小泉八雲―怪談とフォークロリストのまなざし―」を開催します。

『怪談』に代表される幻想的な作品を生み出した作家、小泉八雲。彼は、日本を「小さな妖精の国」や「神々の国」と表現し、異邦人としてその文化を見つめ続けました。そんな八雲の作品には、怪異譚（かいいたん）や民間信仰、自然観に基づくものが少なくありません。それは、八雲がフォークロリスト（民俗学者）としての視点も持ち合わせていたためです。八雲は、日本人の目に見えないものへの祈りや自然を敬う心を感じとり、表現しました。

本展では、八雲が、自身の目と耳をとおして触れた日本の民俗・文化の魅力やその豊かさを、数々の作品から読み解きます。

開催概要

展覧会名：特別展「小泉八雲―怪談とフォークロリストのまなざし―」

会 期：2026年4月11日（土）～6月8日（月）

休 館 日：火曜日 ※ただし、5月5日（火・祝）は開館

会 場：大阪歴史博物館 6階 特別展示室 [〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32]

<https://www.osakamushis.jp/>

（最寄駅）Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②号・⑨号出口、大阪シティバス「馬場町」バス停前

お問合せ：大阪市総合コールセンター（なにわコール）06-4301-7285

開館時間：午前9時30分～午後5時※入館は閉館の30分前まで

観 覧 料：大人1,600（1,400）円、高大生1,000（800）円

（消費税込）前売券販売期間：2026年2月2日（月）午前10時～4月10日（金）午後11時59分

※（ ）内は前売りおよび20名以上の団体料金 ※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料

※チケットの販売につきましては、詳細が決まり次第、大阪歴史博物館ホームページ（<https://www.osakamushis.jp/>）等にて、ご案内します。

主 催：大阪歴史博物館、NHKエンタープライズ近畿、産経新聞社

共 催：NHK大阪放送局

後 援：公益財団法人 大阪観光局

展示資料数：約150件（予定）



【1】

小泉八雲について



パトリック・ラフカディオ・ハーン（Patrick Lafcadio Hearn）は1850年、ギリシャ西部のレフカダ島で生まれました。19歳で単身渡米、シンシナティ、ニューオリンズで新聞記者として活躍したのち、マルティニーク（西インド諸島）で2年を過ごします。

明治23年（1890）に来日し、横浜で日本の魅力に触れ、長期滞在を決意します。知人の紹介により松江で英語教師の職を得たハーンは、伴侶となるセツと出会います。その後、熊本、神戸と居を移し、明治29年（1896）に帰化（国籍法以前）、日本名を「小泉八雲」としました。そして東京に移り、セツの支えも得ながらさまざまな再話文学を生み出しました。明治37年（1904）4月2日、『怪談』を出版するも、9月26日に自宅にて心臓発作によりこの世を去りました。54歳でした。

※名前表記について、基本的に帰化以前の時期については「ラフカディオ・ハーン」、帰化以降は「小泉八雲」といたします。

※再話文学：伝説、民話などを原典のままではなく、現代的に再構築し表現する文学。

神戸時代の小泉八雲 大阪歴史博物館保管

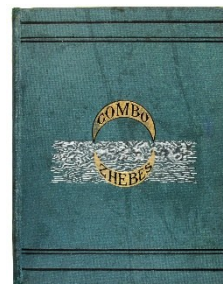
主な展示資料

(1) 『ゴンボ・ゼーブ』 明治18年(1885)

松江市立中央図書館蔵

ルイジアナ、ハイチ、マルティニーク、トリニダード、フランス領ギアナ、モーリシャスというクレオール文化圏のことわざ辞典で、明治17年(1884)のニューオリンズ万博開幕に合わせて企画されました。「ゴンボ・ゼーブ」とはルイジアナで愛されるハーブ入りガンボ(スープ料理)の名で、混淆(こんこう)的なクレオール文化を、種々の具材を煮込んで作るガンボになぞらえたと思われます。本書の序文には「いま、伝承を書き留めておかなければ」と、民俗研究の嚆矢(こうし)となるという強い意志が語られます。

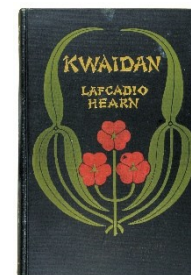
※ここでのクレオールとは、北米南部・中南米におけるヨーロッパ、アフリカ、先住民などの混淆文化を指します。



(2) 『怪談』 明治37年(1904)

松江市立中央図書館蔵

八雲は、昔話や伝説、神話などの原典を語りなおし、物語を生み出す「再話文学」を多く残しています。『怪談』は、小泉八雲の晩年の代表作といえる再話作品集です。平家の亡霊に魅入られた琵琶の名手・芳一(ほういち)を巡る惨劇「耳なし芳一の話」や、江戸・紀ノ国坂でのつげらぼうに遭遇する「貉(むじな)」など、今日まで知られる怪談話を多数収録しています。八雲は、妻セツの語る物語を聞き、小説を編みました。本展では、『怪談』をはじめとする再話文学の原典となった資料もあわせて展示いたします。



(3) 『小泉八雲秘稿画本 妖魔詩話(ようましわ)』 昭和9年(1934)

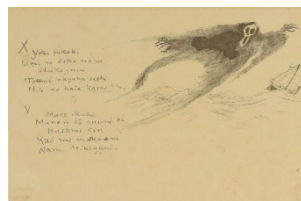
島根県立古代出雲歴史博物館蔵

八雲の没後30年を記念し、長男の一雄が遺稿をもとに500部限定で刊行しました。本書の序文によると、セツが購入した『狂歌百物語』を目にした八雲は「コウ面白イ! 貴女忙シ無イノ時、是非読ム下サレ、私翻訳シマセウ」と喜んだそうです。八雲の描く妖怪たちは、『狂歌百物語』の挿絵とは一線を画し、独特のイメージで表現されています。たとえば、『怪談』で美女に化けて現れるとされる雪女はどこか洋風の姿で描かれます。また、桶(おけ)や柄杓(ひしゃく)で水を掬(すく)い入れ、船を沈める船幽霊(ふなゆうれい)は、まるで死神のようです。

※会期中、一部ページのめくり替えをいたします。



雪女(部分)
(展示期間: 4月11日~5月11日)



船幽霊(部分)
(展示期間: 5月13日~6月8日)

(4) ヘルン像(右横顔) 小泉清(こいずみきよ)筆 昭和25年(1950)

小泉八雲記念館蔵

八雲の三男・小泉清(1899~1962)は、明治45年(1912)に早稲田中学に入学後、會津八一(あいづやいち)に画才を見出されます。大正8年(1919)、佐伯祐三や前田寛治らも所属していた東京美術学校(現:東京藝術大学美術学部)に進学、画家を志します。その後、フォービズム(野獣派)の画風を追求しました。この絵は、清が描いた八雲の右横顔です。八雲は少年時代の事故で左目を失明しており、写真にはほぼ右側の横顔を収め、頑なに左目を隠しました。清は、八雲が隠し続けた左横顔も描いています。本展では、両作品あわせて出品いたします。



関連行事

(1) 講演会「〈つながりの文学〉としての怪談—八雲とアニミズムをめぐる—」

講師: 小泉 凡氏(小泉八雲記念館館長・小泉八雲曾孫)
日時: 2026年4月25日(土) 午後2時~3時30分(受付: 午後1時30分~)
会場: 大阪歴史博物館 4階 講堂
定員: 250名(要事前申込)
参加費: 2,500円(「特別展観覧券」付き)
参加方法: 事前予約制 ※申込開始は2月2日(月) 午前10時の予定です。

(2) 担当学芸員によるスライドトーク

講師: 依 和馬(大阪歴史博物館 学芸員)
日時: 2026年4月18日(土)、5月16日(土) いずれも午後2時~(約30分) (受付: 午後1時30分~)
会場: 大阪歴史博物館 4階 講堂
定員: 250名
参加費: 無料(特別展の観覧券もしくは半券提示が必要です)
参加方法: 当日先着順

※(1)(2) いずれも、詳細につきましては、後日、大阪歴史博物館ホームページ(<https://www.osakamushis.jp/>) 等にて、ご案内します。

【広報画像一覧・クレジット・申込書】
特別展「小泉八雲―怪談とフォークロリストのまなざし―」

広報用画像を提供いたします。ご希望の場合は、下記よりお申込みください。

【申込フォーム】

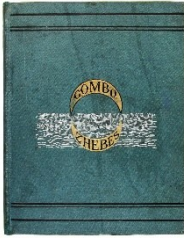
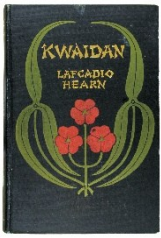
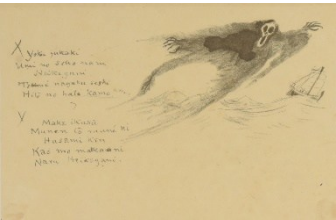
<https://forms.gle/S7N9oW4QmASTgiPq7>

※入力が難しい場合は、広報事務局までお問い合わせください。



【広報用画像使用に関する注意事項】

- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 展覧会名、会期・会場名のほか、クレジットを必ずご掲載ください。
- 画像は全図でご使用ください。トリミング、文字乗せなどの加工・改変はできません。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、グラブリ・原稿段階のものを「広報事務局」にお送りください。
- 掲載誌・紙（ご紹介号）、URL、同録DVD、データほかを下記広報事務局まで1部お送りください。

【2】 	【3】 	【4】 
【5】 	【6】 	【7】 

【広報画像・キャプション一覧】ご希望の画像番号の□に✓をお願いします。

番号	クレジット一覧 *アキは全角です
1□	先行メインビジュアル ※クレジットなし
2□	神戸時代の小泉八雲 大阪歴史博物館保管
3□	『ゴンボ・ゼーブ』明治18年（1885） 松江市立中央図書館蔵
4□	『怪談』明治37年（1904） 松江市立中央図書館蔵
5□	『小泉八雲秘稿画本 妖魔詩話』雪女（部分） 昭和9年（1934） 島根県立古代出雲歴史博物館蔵（展示期間：4月11日～5月11日）
6□	『小泉八雲秘稿画本 妖魔詩話』船幽霊（部分） 昭和9年（1934） 島根県立古代出雲歴史博物館蔵（展示期間：5月13日～6月8日）
7□	ヘルン像（右横顔） 小泉清筆 昭和25年（1950） 小泉八雲記念館蔵

貴社名／	ご所属部署／
ご担当者／	TEL／
E-mail／	
貴媒体名／	媒体種／
掲載号・露出予定日／ 月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 ☐ WEBへの転載あり	
サイトURL／	
媒体プレゼント用チケット／ ☐ 希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須、発送は開幕直前になります お送り先／〒	

【報道に関するお問合せ】

「小泉八雲展」広報事務局（ネネラコ内）

E-MAIL | koizumiyakumoten@nenelaco.com TEL | 06-6225-7885 FAX | 06-7635-7587
 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル ※平日午前10時～午後5時（土日祝日のお問合せは翌営業日に対応いたします）